

















[illegible]







山	來	此	幣	後	幣
			安	前	日
			直	直	隔
入	入	入	入	入	入
圓	圓	圓	圓	圓	圓
五	六	六	五	五	五
十	十	十	十	十	十
八	一	一	一	一	一
錢	錢	錢	錢	錢	錢

○雨天なれば更に廿二日

よく之を物語つてゐます。第二には人心の活躍といふ點です。以前に私人の見た牛島の氏は頗る情氣慨々徒らに長煙を颯へて眠つてゐたかに見えたものが今日視ると

▲何れも眼を醒して

然たる馬拳天笑洋員を語ひ氏が始め南大野驛に降りて來た氏の青色の外装と美粧との爲めに兩旁將軍と間違へたと言ふ氏は阿々吠笑しつ

つ曰く『私が京旅の總領事を辭した

も二圓宛の贋貨が附せられて居る。天勝以下五名の總裝者が變らず発見せらるゝであらうか、如何に職權不忠の疑があることも幾千人の人の目を瞞すことが出来るであらうか、

天勝以下四人の美

何も彼も面白かつた大ニコ／

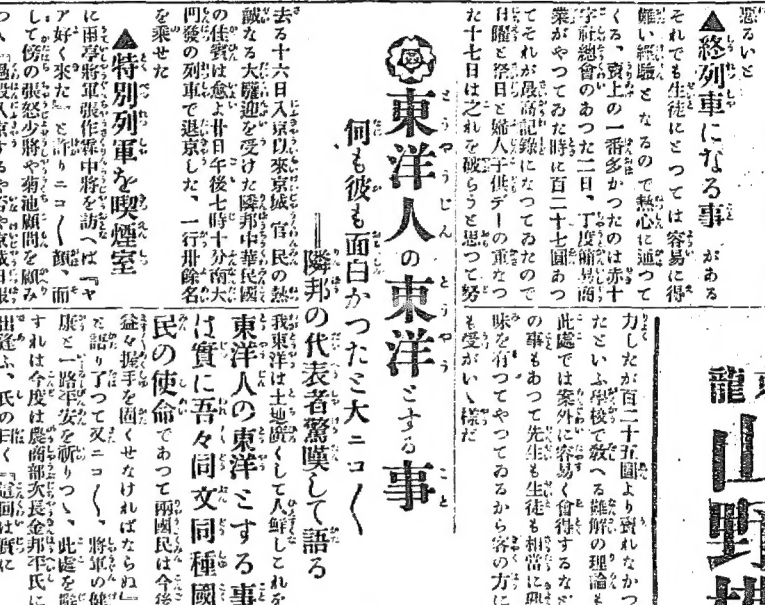
去る十六日入京以來京城官民の熱誠なる大歡迎を受けた陳邦中華民國の代表は愈々廿日午後七時十分大門發の列車で退京した。一行附銘名を乗せて

陳邦の代表者驚嘆して語る  
我東洋は土地廣くして人鮮じこれを  
東洋人の東洋とする事  
に實に吾々同文同種國  
民の使命であつて兩國國民は今後  
益々握手を固くせなければならぬ

特別列車を喫煙室

眼が廻る様な共進會内實習館の

繁昌の教室から店頭に現れたる先生と生徒の愛嬌振りを見よ



家庭博の第二回美人探し

天勝てんかつの變裝探しへんさうさがし

今夜七時より天勝一座の總出し

△變裝者 ○天勝○天花○百合子○節子の四美人  
△一光△天右の二男子  
△賞金 天勝を捕へた人に十圓

無効、變装者は女は女装、男は男装の事

けいひんぶきにんきわがことし

導景品福引人氣如湧

本社  
全鮮  
庭求  
大會

主催 三魚屋 五十一會

廿二日からは博多仁輪川

賀當にては今日二十一日夜より宵夜  
 福宮池畔にて仕舞燈花を打ち揚ぐ  
 こころなし又演義箱は廿二日夜よ  
 餘興として博多仁輪加を那ふる由  
 水族館内の掬すく  
 水族館内餘興場にて本  
 裏山嶺  
 十九十九日

近安北道中江鎮にては本月十九日北

ては十八日初雪ありたり同地の初  
雪は昨年比し二日早し附近各地  
を於ける昨年及び累年の初雪起日を  
下れば左の如し

●解警 中部の警戒  
十日午後五時廿五分（一）

十圓の懸賞は誰の手に――發見

勝つては天勝は今日二十一日の夜七時  
 六名の變装者の均眞は二十日の  
 二今夜には是非捕へねばならぬ  
 れた變装者は其姿で奇術を演

都合六名でくわいろくめいで各おのづか

得意の變裝をやつて合

1

製造業 瀬戸商店  
電話二七一七番  
振替東京二四〇一番

營業專用と致候間不相變御用


●朝鮮總督府法定消毒劑  
●總督府專賣人參精粹

ア イ ゼ ル (液 粉 末)

高麗人三 (エキス錠劑)

本舖 京城鐘路宜壽堂 井上藥品部

京坂南大門通三丁目  
販賣元

  
 特約店  
 京城本町 熊平支店  
 電話 四二番  
 振替口座 京成〇五八番  
 膽寫堂 京城出張所

京城明治町  
唐川吳服店

冬物大賣出し (詳細店内に掲記す)  
いよく十月二十二日より同二十九日まで



千生瓢

(13) 須藤南翠作  
筒井年繪畫

雪消 (三)

沈毅、剛勇、叱咤風發の英氣は、杯を噛む一點の酒の中にも籠つて見えるが、豪傑を得ざる兵馬の勞苦温席に還なき級民の盡瘁、さすがに老ひ行く歸は爭はれなかつた。小谷の御方は、此人をこそ哲老の良人の思んで、三人の姫の將來にも、幸福

で、數を重ねて上られませ」  
「大鵬一たび搏つれば、三千里を翺るに申すぢや。此勝家小説合は大旗ひ、乾門一撥、乗るか、反るかの士博奕が面白」  
「お、勇しい御元氣、その勢ひで、洛までも、宣考までも」  
一路破つて駆け通るのは、今の間もや。これ此通り」と、大土器の一端に



の策を考へて、阿茶々に名門の公達を聘へ、藤井の家を興せよう。種々に後年の畫策を藏らして居た。其良人が衰廢の餘勇を盡して、天下の大軍を一手に引き受け、千里の驛軍の大飛躍を試みようとする快事が、何となく心がしりに使はれてならなかつた。

「今一歇間し食せ。妾お酌の仕つりまする。」

阿茶は殿の手より銚子を取つて、いざさばかりに一膳前ました。藤家は大杯を手にして、

「逆も事に下重に滿々ぞ。」

「左様は大杯で一度に聞し食さいい。」

居の獨れるかと思へる間に、もう一膳には一満も遣りなかつた。

長鯨の百川を吸ふが如く、一氣に大杯を飲み干して、天を仰いで、氣を吐いた藤家は、その土器を洲津の上に復さうとして、つるりと手を

新羅一千年前  
の齊良(朝鮮)  
の都良(廣州)  
に遊べ  
ツク二時間半  
にして迎日灣頭  
引對車  
港に達す

江へせんと、下に落ちて粉微塵に砕け散つた。

「お土器が破れまいた。」

阿茶は殿が驚きの目を睨む。傍から阿信殿がうち興じて、

「父は辭はせられたげ、目隠しして遊びましょ」と、小倉な手をうち囁きた。

阿初娘は、ずつと母上の面色に目をつけて、愈はしげに口を噤んでゐる。小倉の御方は、舞は散つた土器の末を、辿つて、

「併せて元の土になる、此幸先に不辭な徴兆。中組にて今一献。」

「猿猴を眞つ斯うと戯ひ替へば、氣にかける事はない筈併し、師が好意を賜はしう受けうわ。」

「父は辭はせられたげ、目隠しして遊びましょ」と、小倉な手をうち囁きた。

阿初娘は、ずつと母上の面色に目をつけて、愈はしげに口を噤んでゐる。小倉の御方は、舞は散つた土器の末を、辿つて、

「併せて元の土になる、此幸先に不辭な徴兆。中組にて今一献。」

「猿猴を眞つ斯うと戯ひ替へば、氣にかける事はない筈併し、師が好意を賜はしう受けうわ。」

入院隨  
意  
**胃腸病院**  
院主  
電話一六五九番  
佐々木杏造

中細の土器を取り上げて、小谷の御方の酌で、潔く清を引いた。  
『ほう、朝酒とていかう酔うたわ阿茶、眼有せられえ』  
『おひそれ、阿茶が拳強け。阿初笛吹け、阿信はいつもの朗読して父君を慰め参らう』  
『それ好からう、急げん』と、勝家は硯の性念に始めた。

かき鳴らす阿茶の聲の爪音は、足羽の川水も止るかと思はれた。吹き合す阿初・阿信の竹聲は、九十歳の行人も杖を立てるであらう。金の聲の玉の音、優に聞え、清く澄みて、硝氣もなく、鉦氣もなく、戎氣もなく、殺氣もなく、蘭々咲々宇宙を美化した。

病器尿泌  
 腎臟病 淋病 梅毒 皮膚病  
 泌尿科 皮膚科 性病科  
 永樂町二丁目金光教會隣り  
 安部醫院  
 問 專  
 意隨院入  
 診時九夜療診

た眼を擧げて、「能う出来た、引出物は母上が授けられる。誰である」と、手を嚙らした。

「召しまいたか」

「廊下に手を突く腰元を見やつて、『文荷斎居るか』

「ハッ、中村殿詰めらるゝげおざります」

「さらば傳へ」。急に軍務の閑く、玄素尤に登城するやう、早馬を以て召寄せ、「女」

侍女が坐を去る時、勝家は膝を起した。膝あぶなく躊躇と定まらなかつた。

電話四一九番

怪 平 三  
 同上ノ鐵船本 大創  
 ベン光と足跡四篇 天  
 浪花節文句集八篇 出  
 阿波の孝女白法碑 二  
 ぞり 草屋 花菱 一  
 振 歌 草屋 花菱 一  
 江戸の面影 田代新詩集 八  
 江戸時代史論 日本經濟叢書 二  
 京坂本町電話 〇八六番 東京 五五二

りん病  
 清濁で 困る方  
 多年の 慢性的  
 自宅で人知れず秘密に治る 秘法も  
 妙薬も只一劑を飲むだけで三錢送れ  
 の妙薬と自己療法の前例を収す  
 名古屋市南が丘町 武蔵藏吉

大阪屋號書店  
 〇八六番 東京 五五二

**新刊書御案内**

○也  
臨めたる女屏風 遊逸一、〇〇〇  
大日本國語辭典上冊 松井修五、〇〇〇  
作法文範書翰文大全圖模外一、四〇〇  
美文軌範全入詩韻 四、三五〇  
美文の館大無餘 三、四五〇  
漢文の帝大倉正之助 四、七五〇  
中製棧入聖徳朝朝病日診書 二、四五〇  
新譯獨和辭典分巻信仁 田村等 三、〇〇〇  
様式購買模範研究陶器王 一、八〇〇  
住宅の家相島島社一邸 一、八〇〇  
朝鮮風俗集村郷 一、五五〇  
朝鮮より富原 鶴村 一、五五〇  
獨逸と歐羅巴加賀元志一、一〇〇

●理想的の  
社交機關  
新設の京城俱樂部  
圍碁、將棋、球突、謠曲等の娛樂に  
純佛蘭西式の料理

大阪府堺市  
福助足袋本店  
到る處に  
販賣店あり

新發大壽好評

# 學足袋

強くて  
お値段の  
安い  
燃生らしき



一大郎發蘭出服所附屬上屋移築其他  
工事  
右競爭人札二附々詳細ハ十月二十日  
以後ハ朝鮮總督府官報又ハ本府若ハ  
慶尙北道廳ノ指示ヲ見ヨ

## 朝鮮總督府

[illegible]

萬歲奉祝會

朝鮮一手販賣

東京日報社代理部

振替東京三〇〇番

略號名

稱品種調製概略

寸法(曲尺)

一流の價格郵送料

御大典の期日切迫して参りました、千載一遇の御大典には必らず此萬歳旂を掲揚して奉祝せねばなりませぬ時機を逸せぬ様に御注文を希望します

鍋島侯爵令夫人御詠贈  
（ミルド化粧品を愛で）  
外国の人もきそひてためすらむ  
ならぶものなきこの化粧水

榮子

化粧液

しふは  
進みば  
すから  
るゝこ  
思めに  
ば今東  
を初め  
に御賞  
せり君  
全圖到  
東

皇后陛下を初め奉り

右橘川宮兩妃殿下 梨木宮妃殿下  
伏見宮妃殿下 朝香宮妃殿下  
閑院宮妃殿下 東久邇宮妃殿下  
車伏見宮妃殿下 北白川宮妃殿下  
華頂宮妃殿下 山階宮妃殿下  
久邇宮兩妃殿下 賀陽宮妃殿下  
付田宮妃殿下

以上各々宮妃殿下懸つて御嘉猷の榮を賜  
はりたり。滿んで茲に感謝の意を表し奉  
り供而本品愛用者各位に此光榮を願つ

御二條公爵閣下  
後土方伯爵閣下  
援大原伯爵閣下



普通のもの  
まつて  
料です

本船取集出 大池回漕部

三河共同汽船の出帆  
○波川 釜山、橫濱行  
△千珠丸 九月十一日午後四時  
△チヨイサン 九月十一日午後四時  
○大連直行  
△千珠丸 十月廿七日正午出帆  
△チヨイサン 十一月八日正午出帆  
○津浦(滿洲行)(元山出帆)  
○神宮丸 十一月八日午後九時  
○地久丸 十一月八日午後九時  
○主津丸 十一月十四日出帆  
▲威海、基隆、打刺行(大連出帆)  
新隆丸 十月十六日午後四時  
基隆丸 十月十六日午後四時  
御意注 可成候所 同往客船斷り 同往客船無貨物との船車  
仁川、竹筴、寶所、大阪、朝鮮會社、支店  
京城市符發賣所 內國通運會社、支店  
電話二〇〇五、二〇〇六、七八〇番

[illegible][illegible][illegible]